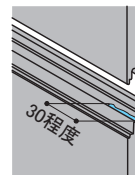


1 センターサイディング標準施工法

1-7 センターサイディング施工上の注意事項

3) センターサイディング施工時のシーリングについて

- センターサイディングを横張りで施工する場合は、雨水の横走り防止のため、本体左右端部から30mm程度の嵌合部差し込み溝内部に捨てシーリングを施工します。
- センターサイディングを縦張りで施工する場合は、下端部に水が滞留しないようにシーリングは施工しません。
- 受けなどの先付け付属部材は、指定の部位に捨てシーリングを施工します。この際、捨てシーリングが浸入した水の排出を妨げないように注意してください。
- 本体の芯材はシーリングと接着しません。シーリング工事の際は、表面の金属部を折り曲げ、シールポケットを作ります。



シーリングを施工してから差し込みます。

両端部シーリング
※センターサイディングを
施工しながら行います。

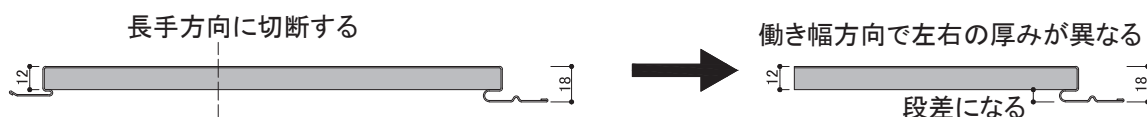
4) 錆防止について

- 特に鉄骨造では、セルフドリリングビス留め付け時の切り粉による錆発生を防止するため、ビス留め後、切り粉を払ってください。

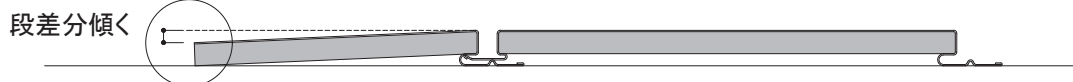
5) センターサイディングの留め付けについて

- 本体2枚ごとに働き幅と水平を確認してください。
- 打ち抜きを防止するため、釘打ち機は使用しないでください。
- 糸目地タイプのセンターサイディング(F型、FB型、FN型)では、変形防止のため、強く押しつけながら差し込まないでください。
- A型を施工する場合には、下記の点に注意して施工してください。

①A型を長手方向に切断すると、実形状および芯材の厚みにより、働き幅方向の厚みが変わります。



②このまま施工すると、張り始めと張り終わりで本体が傾いてしまいます。(下図○部)



③②の状態では外観や付属部材との納まりが悪いので、面があうように調整材(合板などを小割にしたもの)を追加します。



④端部に付属部材を施工する場合には、付属部材(見切縁、受け材など)の厚みを考慮して調整材を選定してください。

- NS型、ST型を縦張りする場合、柄と嵌合の特性上、見る方向によって目地部の目立ち方が異なります。張り始めの方向にご注意ください。

